

YOU

PS : 今日は Chicago 大学から来た、君たちの教材の文章の筆者でもある、Norma Field 博士と話をする機会に恵まれた。さて、この英語 I に参加していただいてありがとう、Norma Field 博士。

PF : こちらこそ。これは私にとっても喜ばしいことだし、わざわざ小樽まで来たことに感謝しているわ。

PS : 最初にあなたの公演の文書を読んだとき、私は社会の重要性を生徒たちに教え込むべく考えられたらうすばらしいメッセージだと思った。しかし小林多喜二の小説をいくつか読んだあとでは、あなたが彼の専門家だと知った上でのことだけど、個人についての考え、つまり全ての個人的グループの二項対立という考えは小林多喜二についての研究の経験に由来しているのかい？

PF : 実際は違うわ。反対よ。小林多喜二について研究してるからだとは思ったことないわ。そうね、

私はあの演説の中で、個性を感じるように励まされていた人は、若者も含め私たちみんなのうちにばらつきがあると考えていたと思うの。ある人は、私たちの中のある人は個人として認められて育ってきた。ほかの人たちはそうじゃない。そして、私たちが完全に自由で自決できると感じるか、完全にどうしようもなく定められていると感じるか、には大きな不均衡がある。どちらも世界を生きるうえで助けになるものではない。私は今ではあの演説をしたときより弱い人間です。私は、私が伝えようとしていて全く捨てない価値を見つけたけど、「教育で本当に、何よりも大事なことはこれだ」と言うことは難しいということにも気づいたの。だから今では私は希望のある個性の重要性を学びつつあるの。年をとって時々感じるのだけれど、世界は私の生きてる間は良くなる。そして、「だけど人間の歴史を見れば真っ暗なのよ」と私は言うわ。ほとんどの人間の歴史は真っ暗だわ。私たちの世代はその意味では目立たないかもしれない。だから、私たちが希望を持って生きるために必要なものは、どんな知的で感情的で本当に精神的な規律の類のものなのかしら？それが私たちが互いに果たさなければならぬ義務だと思うの。

FAT

今日の講座の読み物では、イシイ・ナオカタ教授がウォーキングにより得られる運動面の利点について説明していただきます。そして、私たちにとって幸運なことに、ウォーキングは最も安くて簡単な運動方法のひとつなのです。しかし、運動のために歩くことの利点を得るためには、正しいやり方で行うことが重要です。

そこで私たちは、（歩くことの）専門家（である）、イシイ教授の助手のクドウ・マイコさんに（正しくウォーキングを行うための）ヒントをいただけるようお願いしました。クドウさんによると、最も大切なポイントは、良い姿勢で始めることだそうです。正しい姿勢は、歩いているときや立っているときだけでなく、座っているときにも絶対的な〔≡とても重要な〕基本です。それ〔=正しい姿勢〕は、私たちの骨や関節を適切な配置構造に保ち、私たちが自分の筋肉を正しく使えるようにしてくれます。また、背骨をつなぎ合わせている靭帯への負担を和らげてくれます。そして、良い姿勢をしていると私たちは筋肉をより効率的に使う；つまりエネルギー消費量が少なくて済むので、疲労を防止することもできます。また、背痛や筋肉痛を防ぎます。私たちの見た目を良くする手伝いもしてくれます。クドウさんは、まずは、滑らかで安全に座って立ち上がる方法を私たちに見せてくれました。簡単そうに見えるでしょう？でも、あなたはあんなに優雅に座ったり立ったりできますか？

次に、クドウさんは立ち方（の説明）に移りました。ここでは、彼女は私たちが本来とるべき立ち方：顎を引いて、私たちの耳から肩を通して足まで 真っ直ぐな線が通っていると想像する方法、のデモンストレーションをしてくれています。最後に、彼女は正しい歩き方を見せてくれました。これ〔=正しい歩き方〕は、私たちが想像するよりもはるかに複雑だということが分かりました。私たちのほとんどはあまり考えもなくのろのろ歩いています。実は上手に歩くには技術がいるのだということが分かったのです。クドウさんは、前かがみにならないことが大切だと言いました。私たちは、前方約5メートルくらいの点を真っ直ぐ見なければなりません。腕はバランスを保ち、自然に動かします。それぞれの足が地面に触れるときは、最初に地面につくのは必ずかかとでなければいけません。

ここまではいいでしょうか？それでは、と。では、私たちの体重の移動の仕方に注目してみましよう。私たちは、自分の体重が足の 外側や内側に偏って不均等に分配されていないことを確かめなければいけません。歩幅は、前よりも後ろが長くなっていないといけません。また、横や上下に動いてしまっているのなら、それは体重移動が正しくできていないということを意味しています。あともう一つ：歩幅をあまりにも長くしないこと。早足で歩きたいのなら、歩幅を長くするより歩数を増やした方がいいのです。

もちろん、ウォーキングが効果的な運動になっていることを確実にしたければ、姿勢以外にも 心に留めておくべき重要な要素が他にもあります。正しい呼吸の仕方も考慮しなければいけません；そしてもちろん、正しい種類の靴もはかなければいけないので、なかなか複雑なのです。しかし、今日読んだことで分かったように、ウォーキングは身体を鍛えるのにとってもいい方法なのです。そして、私たちのほとんどが毎日やっていることなので、どうせなら正しくやろうと試みたほうがいいですよ。

TRADITION

フラダンスは何世代にもわたってハワイ文化の重要な一部です。ハワイの人は、男性も女性も何世紀もの間フラダンスを踊ってきました。こちらはコガさんです。彼女は東京大学の元大学院生でハワイはホノルルのアラモアナビーチでフラダンスを踊っているところです。コガさんは民族音楽学の専門家でフラダンスを5年以上習っています。

フラダンスは簡単そうに見えますね。しかし実際にはちっとも簡単ではありません。基本のステップを正しく覚えることにも何年もの練習が必要です。そして正しい動きを習うことは始まりにすぎません。フラダンスを習うことに本気で興味を持つ人は誰でもフラダンスの歴史とハワイの人にとっての文化的意義も理解しなければなりません。

今日私たちはたいていフラダンスを音楽、ウクレレやギターの伴奏に合わせて見ます。しかし昔はフラダンスの方が詠唱や詩の伴奏のような役割でした。詠唱者が詩を朗読し、フラダンスが体の動きでその話し言葉を繰り返し、補強して表現しました。詠唱は、王やその家族を祝うものもあれば収穫を祈ったり来訪者を歓迎するものもあり、また神や女神

に捧げた詩もあれば愛の詩もありました。詩はひょうたんや木でできたドラムと一緒に朗読されました。フラダンスは時々男性または女性一人だけで踊りましたがそれ以外の時には200人もの人が完全に同じ動きで踊りました。フラダンサーはダンスを完璧に踊るためにとても熱心に訓練しました。ダンサーたちはみんな halau と言われるところで共同生活し、一緒に練習しました。Halau では kumuhula という先生がダンスの動きを定め、ダンサーに教えました。kumuhula はフラダンスの伝統が確実に守られ次のハワイ人の世代へ受け継がれるようにしていました。

ハワイがヨーロッパやアメリカ社会と接触して以来ここ200年ほどでフラダンスは大きく変化しました。しかし今日のハワイでも、フラダンスは未だにハワイの伝統のきわめて重要な一面であると考えられています。特にネイティブのハワイ人にとって、フラダンスはハワイ諸島の伝統と彼らを結びつける文化的な錨の役割を果たしています。ハワイの文化や社会を理解したいと思っている人は誰でもフラダンスの重要性を理解しようとしなければなりません。コガさんはそういうわけで何年もフラダンスを習っているのです。

矢口先生はそれほど長くフラダンスを習ってきた訳ではありません。だから彼は、今回はフラダンスのコツをつかむいい機会だと考えました。しかしながら、どういうわけか熟練者に比べて矢口先生はぎこちなく見えます。そう思いませんか？お尻はコガさんのようになめらかに動かないし、腕は水平ではありません。頭は傾いていて、姿勢が悪く、ステップは不規則です。さらに付け加えなければいけませんが、笑顔に魅力が感じられません。彼がフラダンスを習得するには長い時間がかかりそうです。

MATHEMATICS

OBJECTIVITY

自分が自分であることをどうやって証明しますか？皆さんは駒場で試験を受ける際、机の上に自分の顔写真付のIDを置くように求められることがあるかもしれません。そして、その写真によって皆さんは自分が自分であることを証明するのです。しかし、皆さんのIDに描かれた顔写真が本当に自分を正確に、客観的に示していると思いますか？

物議を醸している「On Photography」という本において、アメリカの批評家スーザン・

ソントグ氏は、写真が真実を正確に示すという一般的な考えに異議を唱えた。ソントグ氏は、カメラによる真実の解釈は、それが暴露していることより多くのことを常に隠さざるを得ないと主張した。我々が新聞を読んでいる時に、新聞上のある写真が隠し、避け、誤って伝えているものを自問自答するために、読むのをやめることはめったにしない。

我々の多くにとって、写真はある種の本物の窓を通じた真実の場面と同じくらいに真実のものであるように思われるのである。しかし、報道写真は真実を正確に、そして客観的にとらえるものなのか？さて、そうした問題の一部には真実が何を意味するのかという定義が実に困難であるという問題が存在する。したがって、写真の真実性の問題に取り組む最善の方法は、これらの視覚映像を、藤垣教授が数字をとらえる際に用いた方法と同じように考えることなのである。

藤垣教授は、あらゆる物事はデジタル化されると一人歩きするように思われ、客観的であると思われるようになると我々に警告する。それで彼女は仮説の構築においての近似化の過程を心に留めるよう我々を促しているのである。写真の画像もまたたやすく一人歩きをして、客観的であるように思われだすのだから、我々は、藤垣教授が数を扱う際に我々に促す方法と同じように写真の画像を扱うべきなのではないだろうか。我々が注目すべきことは写真をとる過程なのであって、とった写真ではないのである。

すなわち我々は、いかにして写真の真実さが構築されるかについて考えていかねばならないのである。それでは、どうやって写真ができるか考えてみよう。皆さんが写真を撮るときにすること、すなわち一枚の画像を作るために必要ないくつかの事象について考察してみる。おそらく最初に被写体あるいは景色、すなわち、「皆さんは人や木や何か他のものの写真を撮るのか？」を決定し、次に写真を撮る角度、すなわち「撮り方はまっすぐか、右側か左側か、後方か前方か」を決定するであろう。次に構図、すなわち、「被写体の配列をどのようにするか」を決定し、トリミング、すなわち「何を含め、何を外すか」を決定する。最後に焦点、すなわち「何に注目するか」を決定する。

我々は皆、写真を撮る際に、意識的であろうとなかろうと、たやすく、ほんの僅かなことについて考えているのである。そして、もちろん今日では、デジタルカメラを用いた、デジタル操作の問題も存在する。ソフトウェアを用いて我々は容易にあれこれ決定することができる。我々のコンピューター画面に写真がすでに表示されているそのあとに、ど

れだけの邪魔な部分を切り取るかによって、コントラストがどの程度になるかが際立ってくる。あるいは、2つ以上の画像を組み合わせることで実際には存在したことの無い複合的な画像を作ることだってできるのである。数字がデータになり得、それが客観的であるように思われるのと同様に、写真も画像データになり得、それは真実であるように思われるのである。したがって、真実を判断するためには、社会生活における視覚映像がどのようにして作られるか、その過程を大いに意識することが重要なのである。

SUBJECTIVITY

VOICE

COFFEE

POETRY

アオテアオラはマオリの地名である。ニュージーランドがその場所の英語の名前だ。アオテアオラ、ニュージーランド、は混合と交渉の歴史から生まれた場所である。生命と躍動に満ちているその劇的な風景と同様に、アオテアオラ、つまり今日のニュージーランドは、未だに目に見えて発展を続けている場所だ。現在、学者はマオリの入植地であるアオテアオラの歴史について活発に議論している。

更に、今日ではマオリ、アオテアオラ、ニュージーランドの未来について熱烈な議論が交わされている。どのように現代のアオテアオラ、ニュージーランドにおけるマオリの側面が保持され、尊重されるべきか。

一部の人々にとって、マオリの伝統の保護と将来的な発展を観光事業と結びつけることが、マオリの伝統を保持し、尊重する最善の手段である。歴史的に、マオリの文化は訪問者を歓迎し、案内する強い伝統を持っている。そしてこの伝統は、世界中からの訪問客がマオリの工芸品を学び、マオリの伝統的な歌や踊り、儀式の上演を鑑賞し、上演者と交流することができるオークランド美術館のような場所で、今日も続けられている。また、オークランドから車で半日ほど離れた所にあるロトゥアロアでも訪問者は暖かく歓迎される。

ロトゥアロアは、間欠泉や泥沼、温泉などの地熱活動だけでなく、マオリの文化と歴史の公開でも広く知られている。

例えば、ニュージーランドマオリ芸術・文化協会では、観光客は再建されたマオリの村の隣にある彫刻学校、テワンガワカイロを訪れることができる。その村は、普通はファカレワレアと呼ばれているが、その村の省略されていないマオリの名前はもう少し長い。テファカレワカレワタンガ……………（ごめんなさい聞き取れません）ファカレワレアで働く博識なマオリの案内人や上演者は、訪れる観光客に村とその伝統を説明することに誇りを持っている。多くのマオリ人は、訪問客を歓迎し、彼らと交流することは現代マオリ文化の不可欠な一部であると信じている。

だが、それに反対する者もいる。一部のマオリ人は、自分たちの文化が商業化され、包装して売ることのできる商品のようにされていると感じている。彼らは、マオリの歴史がファカレワレアについて伝えてきたことは簡略化されすぎていて、表面的だと考えている。もう一つの批判は、文化を商品化され、観光客に売られているマオリ人自身が、この過程にほとんど支配力を持っておらず、経済的な利益もほとんどないということだ。一部の人は、マオリの観光事業は非マオリ人や外部の開発業者に支配されていると主張する。地元のマオリ人は主に案内人や上演者として関係していて、マオリの観光事業全体に対する支配力はほとんどない。

アオテアオラ、今日のニュージーランドは、混合と交流の歴史——時には平和で、時には平和でない歴史——から独特な場所が生まれるよい例を提供してくれる。マオリ文化の保護と促進に関する今日の議論は、進行中の、アオテアオラ、ニュージーランドを共有地とする交渉の、不可欠であり、創造的な要素である。彫刻学校の作業場では、生徒は手工業を習う。観光客は生徒から学ぶ。仕事と学習が統合されたこの小さな場は、異なる関心と歴史の混合が上手い具合になされたよい例を提供している。

VIEW